「アガリクス・ブラゼイ協議会」設立

安全性の自主ガイドライン作成へ

アガリクス・ブラゼイ協議会は22日、正式に発足した。設立目的は健康産業の一翼を担う素材として活用するため、規約に基づき、公正な取引の確保、研究・普及・振興を積極的に図り、全人類の健康増進に寄与することとした。事業として、①品質規格②表示規格③公正な取引に関する法令の普及および違反の防止④規約の内容を周知徹底⑤規約についての相談・指導⑥規約の規定に違反する疑いがある事実の調査とそれに関する処置⑦関係官庁との連絡・協力⑧研究資料の収集・研究会開催⑨その他本協議会の目的を達成するために必要と認められたこと――などを行う。品質基準については、協議会内に専門委員会を立ち上げて制定する。品質基準制定委員会にはTTC（東京都港区、☎03・5459・53329）およびバイオセラピー開発研究センター（東京都港区、☎03・5537・3810）がメンバーに入った。

現在、同協議会の自主暫定ガイドラインとして、原材料および個別商品の安全性基準を作成中である。原材料の安全性基準は①使用部位（基原）の確認②一般成分において食品衛生法で定められた基準を満たしていること③残留農薬についてポジティブリスト制で定められた基準を満たしていること④原材料における重金属規定値（検討中）⑤アガリチンの分析⑥動物を用いた単回ならびに反復経口投与試験（90日間以上）⑦遺伝毒性試験（復帰突然変異試験、染色体異常試験、小核試験）となっている。また、個別商品の安全性基準は①原材料の安全性基準を満たし、かつ副原料が含まれない場合はヒトでの過剰摂取試験が免除される。安全性試験が行われてなく、副原料が含まれている場合はヒトでの過剰摂取試験を行う必要がある②アガリチンの分析③相互作用を引き起こす副原料が配合されていないか確認する④エキスタイプの製品は清涼飲料水基準で定めている基準を満たすこと――など。

同協議会はアガリクス・ブラゼイ（学名・アガリクス・ブラゼイ・ムリル、日本名・ヒメマツタケ、カワリハラタケ）の栽培および販売を手がける岩出菌学研究所、エス・エス・アイ、協和ウェルネス、ホクトメディカルの4社を幹事企業、TTCをアドバイザーとし、バイオセラピー開発研究センターを事務局とする。正会員は入会費5万円、年会費10万円。賛助会員（総会に参加できるが、表決権がない）は入会費1万円、年会費5万円。

事務局はバイオセラピー開発研究センター内（東京都港区、☎03・5537・3810）

目視検査を自動化

――第一実業ビスウィル――

錠剤外観検査システムに注目！

健食ガイドラインや健食GMPの広まりで健康食品市場でも製品に対する品質管理が医薬品並みに求められてきている。このような時流のなか、旧・カネボウ㈱ビジョンシステム部時代から外観検査機に特化している、第一実業ビスウィル（大阪府吹田市、☎06・6378・6115）の食品・健康食品向け錠剤外観検査システム「新アステリア（Astria）」の引き合いが活発化している。医薬品業界への豊富な納入実績や独自の検査システム、優れたコストパフォーマンスが注目を集め、多くの企業が高い興味を示し始めた。

「アステリア」は、30年以上に及ぶ医薬品業界で培ったノウハウを食品産業向けに進化させた自動外観検査システムで、サプリメントからラムネ菓子など様々な錠剤の外観検査を高い検査精度で簡便に行えるのが特長だ。医薬品業界では当たり前となっている自動外観検査システムであるが、昨今の品質管理の高まりから健康食品業界でも注目が高まっている。これまで熟練の検査員が数名、交代制で行っていた目視検査を自動化（機械が良品・不良品の判定を行い、選別）することで、製品の品質保証や生産工程の省力化に貢献する装置として多くの企業で検討が進んでいる。

錠剤は形状、剤型、サイズ、色など様々あるが、アステリアでは、いずれの錠剤にも標準的に対応が可能。黒点、エッジ欠け、傷、割れ、変形、印刷ずれなど一般的に目視検査を自動化できる項目が行える。吸引により、錠剤のない穴を検知し、高速で自動的に穴の欠陥を検知する。また、時処理能力は1分間に約100錠。

ミミズの養殖30年　石井陽一氏が講演

る。宮崎銀行頭取の井上信一氏から宮崎医科大学の初代学長勝木司馬之助先生を紹介され面談の機会を得た。「ミミズの養殖30年」という演題で講演された。

先生の話に乗った人たちが飼いはじめ、いよいよ増えたので貸し戻してもらいに戻してくれる」という儲け話に乗った人たちが飼いはじめ、いよいよ増えたので貸し戻してもらいに戻してくれる」という育の問題が起こり、死んだ。

いるとき、ミミズの養